2015 AUTOBACS SUPER GT Round3

「BURIRAM SUPER GT 300km RACE」

■開催日　予選 6 月 20 日（土）　決勝 6 月 21 日（日）■開催地　ﾁｬﾝ ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｻｰｷｯﾄ
■入場者数　予選：16,412 人　決勝：38,381 人

SUPER GT 第 3 戦は舞台をタイに移し開催された。今シーズンで 2 回目を迎えたチャン・インターナショナルサーキットは、広大な土地に造られた全長 4.5km のフラットなサーキットで、メインスタンドから全コースがほぼ見渡せるほど。
LEXUS TEAM WEDSSPORT BANDOH は予選では、Q2 に進出し 8 番グリッドを獲得。決勝では、ミスターGT こと脇阪選手からスタートを切り、序盤にはライバル達の混乱に巻き込まれ苦戦を強いられるが冷静にレースを展開。そのバトンを受け取った関口選手も後半戦に見事な追い上げを見せ、9 位でフィニッシュ。3 戦連続でポイントゲットし、次戦への手ごたえを感じた。

【公式予選】

□公式予選 天候：晴れ ｜ コース：ドライ ｜ 気温／路面温度 Q1 開始時 36℃／58℃、Q2 開始時 38℃／57℃、Q2 終了時 38℃／54℃

予選を迎えた朝も空が高く澄み渡り、遮るもののないサーキットに心地よいエンジンサウンドが響いた。午後から雨の予報も出る中での開催となったが、のちに予報が当たることはなく、乾ききったコースの路面温度は、予選が始まる 15 時には 60 度近くまで上がり、灼熱のサーキットと化した。
19 号車 WedsSport ADVAN RC F の Q1 を担当する関口選手は 500 クラスの予選が始まる 15 時 20 分には戦闘態勢を整えるがピットで待機。先陣を切ってコースへ出たのは同じ ADVAN ユーザーの 24 号車。そして 19 号車 WedsSport ADVAN RC F を操る関口選手がコースへ出たのを皮切りにライバル達も次々とコースへ。この時点で予選時間の残りは 8 分。いち早くコースインした 24 号車が 26 秒台をマークすると、それに続くライバル達も次々とタイムを更新する中、19 号車 WedsSport ADVAN RC-F はなかなかタイムを更新せず歯がゆい予選が続くが、残り 3 分をきった 4 ラップ目に 1'25.765 のタイムをだし暫定 3 位に躍り出た。しかし、関口選手は 1 ラップのクーリングラップを設けたのち、再アタックし、1‘25.576 のタイムをたたき出し、2 位にランキングされ、Q2 への切符を手にした。
そして、ポールポジションを決める Q2 が 16 時 05 分から始まった。しかし Q2 へ進出した 8 台のマシンは動きを見せず、観客は予選が始まったことに気づいていない様子がうかがえる。そして、脇阪選手がステアリングを握る 19 号車 WedsSport ADVAN RC-F は、16 時 07 分に早々にコースイン。ラップを重ねるごとにタイムを刻む 19 号車 WedsSport ADVAN RC-F は、3 ラップ目に 1’29.081 をマークし、

4 ラップ目に入ったところで辛くもスピン。3 ラップ目のタイム 1’29.081 が Q2 の結果となり 8 位にランキング。悔しい結果となってしまうが、今季最上位のポジションを獲得し、明日の決勝に望みをかけた。

Q2 の結果、ポールポジションは 38 号車 ZENT CERUMO RC F、2 位 36 号車 PETRONAS TOM’S RC F、3 位 S Road MOLA GT-R と続き、終わってみたら、LEXUS 勢が 8 台中 5 台を占め LEXUS の速さが光る予選となった。

【決勝】

□天候：晴れ ｜ コース：ドライ ｜ 気温／路面温度 開始:37 度／50 度＞途中:35 度／58 度

決勝日も太陽の熱を帯びたコースは立っているだけで足の裏から熱が伝わってくるほど熱くなり、これから始まる熱いレースにさらに熱を加えるようだ。レースはスタート進行が 13 時 50 分から始まり、気温が 37 度に達した 15 時、フォーメーションラップが開始された。19 号車 WedsSport ADVAN RC F のコックピットには脇阪選手。フォーメーションラップを終えた精鋭たちが最終コーナーからコントロールラインを通過し、一気にアクセル全開。300 キロ先のゴールを目指して決勝の幕が上がった。トップ集団はライバルを牽制しあいながらもクリーンに 1 コーナーを立ちあがりレースを展開、19 号車 WedsSport ADVAN RC F は、オープニングラップの荒波にのまれながらもレースを展開するが、3 ラップ目には 12 位にドロップ。しかし、4 ラップ目にはポジションを 11 位に回復し、早々に戦線離脱していくライバルを尻目に冷静にレースを展開。しかし、5 ラップ目には黄旗提示区間で後続車両に接触され、スピンを喫することに。ダメージはなかったものの、レース序盤から厳しいレース展開となってしまう。20 ラップ目には、ライバルの厳しい追い上げに合った 19 号車 WedsSport RC F は、13 位へポジションを置くが、25 ラップ目には 12 位へポジションを回復。ポジションを変えながらレース展開した脇阪選手は、27 ラップ目にピットイン。19 号車 WedsSport ADVAN RC F のたすきを関口選手につないだ。この時点で順位を一つ落とした 13 位で戦列に戻った関口選手は、28 ラップ目には、戦列を離れたライバルを追い越し、12 位へポジションを上げ、36 ラップ目には、11 位へ。44 ラップ目には 10 位へ、54 ラップ目には 9 位へ 19 号車 WedsSport ADVAN RC F のポジションを押し上げた。そして、トップ集団よりの早いラップタイムを刻む関口選手は、残り周回、手を休めることなく攻め続ける。タイヤ無交換でレースに挑んでいた 36 号車がペースを上げられずに、ポジションを落としてきたところへ、19 号車 WedsSport ADVAN RC F も食らいつき、63 ラップ、64 ラップ目には 1‘26 秒台の激走を見せ詰め寄るが、最終ラップ、あと 1 秒足らず悔しくも、9 位でフィニッシュ。第 3 戦の幕を閉じた。

灼熱の第 3 戦は、5 台のマシンが何らかのマシントラブルを抱え、ゴールラインを割ることができないという、サバイバルレースとなった。

優勝は、46 号車 S Road MOLA GT-R、2 位 ENEOS SUSTINA RC F、3 位 KEIHIN NSX CONCEPT-GT という結果に。

【脇阪寿一選手コメント】

今回のレースは 9 位でした。僕からスタートしたのですが、スタート直後のタイヤをウォームアップしている最中になかなかペースが上がらずポジションを落としてしまい、5 周目には黄旗区間で追突されてしまい後退。あまりペースを上げられず、厳しいレースになってしました。今回の車とタイヤは表彰台を狙えるポテンシャルがあったのですが…。次の富士までにはもっといい走りができるように、進化し成長して皆さんの前に立ちたいと思っていますので、引き続きご声援の程、宜しくお願い致します。

【関口雄飛選手コメント】

いつもの国内のレースより圧倒的にタイヤのパフォーマンスが高かったので、ベストラップも 3 位で、微々たる差ですが、速さって意味では本当に良かったです。
最後まで耐久性もあり、終盤までいいペースが保てました。展開に恵まれない部分もあったのは残念です。
9 位という結果ですが、確実に内容に手ごたえを感じているので、この好調を国内でも発揮できるように頑張ります。

【坂東正敬監督コメント】

序盤の接触が響きましたね・・
関口選手はベストラップもレクサストップですからタイヤとマシンのポテンシャルは高かったです。
ADVAN タイヤには感謝しております。予選はセットも攻めた結果でしたので満足しています。
Q1 の使用タイヤと Q2 の使用タイヤの抽選が Q1 使用タイヤに決まった時は運が向いてきたと思っていたのですが・・
ピットも素晴らしかった。今回は少しの運が足りなかったと反省しています。スタートドライバーも脇阪選手に変更して作戦もタイヤ無交換作戦も考えたのですが・・接触の時点で諦めました。3 戦連続幸いにもポイントゲット出来ているのでチームは明るいです。次はホームコース富士！他チームはウェイトハンディも効いてくると思うので勝ちを狙って頑張りますので応援宜しくお願いします。